

令和4年度 香川県立文書館企画展示を開催します。

アーカイブズにみる

香川の交通Ⅲ

—計画・整備・地域の変貌—

「三大プロジェクト」（瀬戸大橋、四国横断自動車道、新高松空港）は、昭和から平成の時代にかけて香川県が推進してきた事業です。これまでの展示でも大規模事業の完成に至る経緯や関連事業等を紹介しました。

この度の展示では、前回に続き「アーカイブズにみる香川の交通」と題して、鉄道・港湾・道路・空港の各事業の計画から整備、その後の地域の変貌を詳しく取り上げます。これら交通体系の整備についての記録資料（アーカイブズ）では、裏面のように当初の計画案が未実施となっている場合や変更されている場合があります。

また、県公文書や行政資料だけでなく、当時を物語る写真や地図などの地域資料も併せて展示します。

- 1 開催期間：11月1日(火)～12月11日(日)
- 2 開館時間：9：00～17：00
- 3 休館日：毎週月曜日、祝日
11月29日(火)～12月4日(日)＜資料整理期間＞
- 4 会場：香川県立文書館 1階展示室（高松市林町2217-19）
- 5 観覧料：無料
- 6 展示資料数：32件（おもな展示資料：裏面）
- 7 関連行事：アーカイブズ・ウォーク

「資料を手に塩屋を歩こう」

企画展示で紹介している運河・塩田の跡などを巡る 約4キロのコースです。

- ◆開催日時：11月20日(日) 午前9時15分～正午
- ◆集合場所：JR 讃岐塩屋駅（解散はJR丸亀駅となります。）
- ◆募集人数：20名程度（先着順）
- ◆申込方法：電話または、文書館閲覧室カウンターにて受け付けます。
- ◆参加費：無料

■お問い合わせ・申込先■

香川県立文書館

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/bunshokan/bunshokan/>

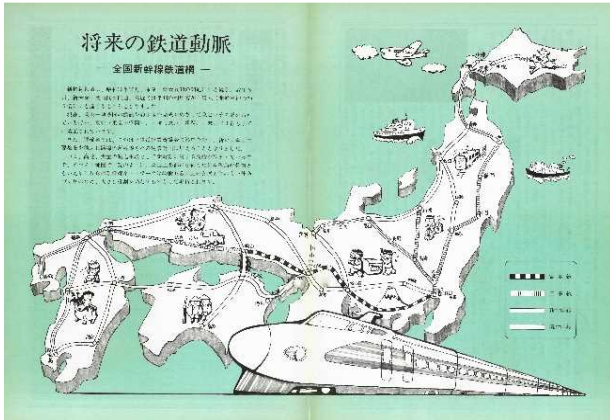
〒761-0301 高松市林町 2217-19

TEL (087) 868-7171

FAX (087) 868-7198



将来の鉄道動脈＝全国新幹線鉄道網（昭和48年）



昭和48年11月の月刊「瀬戸大橋」には、将来の鉄道動脈として松江から瀬戸大橋を経由して高知、大阪から淡路島を通り徳島・香川・愛媛の3県を通過して豊予海峡から大分へ至るなどの新計画線が示されている。

番ノ州地区臨海工業用地造成事業(第1期工事) 状況写真（昭和43年 海上から坂出方面を撮影）



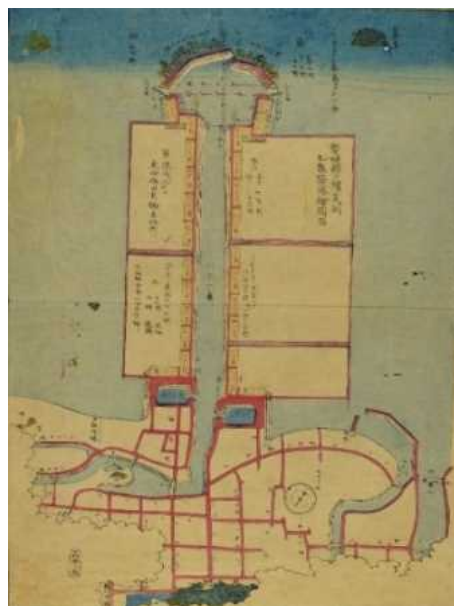
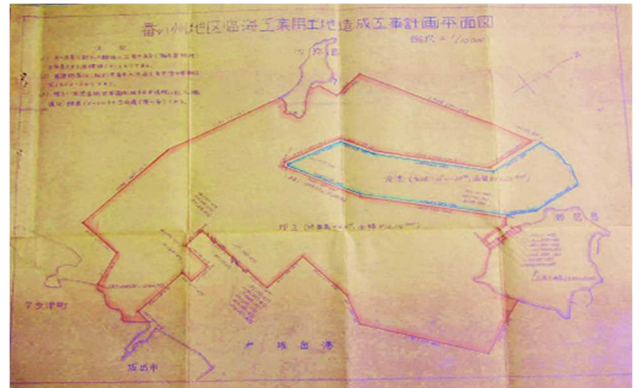
埋め立てで陸続きとなった沙弥島の東側が、瀬戸大橋のルートとなり、瀬戸大橋架橋記念博覧会会場（現瀬戸大橋記念公園）となる。

本土-四国連絡瀬戸大橋 ルート(案)（昭和38年）



3本のルートが示されている。宇野-高松ルートを第1ルート、大槌-小槌ルートを第2ルート、下津井-坂出を第3ルートとしている。

番の州地区臨海工業用地造成工事計画平面図（昭和46年）



愛媛県下讃岐国丸亀築港絵図面（明治10年頃）

丸亀港の発展や塩田開発を目的とした盛港舎という組織が発行した一枚摺りの絵図である。福島と新堀湛甫の北側の海を埋め立てて十数万坪におよぶ土地造成を行い塩田や宅地を造ろうとする計画である。この絵図通りの計画は実行されなかったが、その後埋め立ての形状を変えて、現在は工業団地等に継承されていると考えられる。